

リーディングDXスクール事業【実践事例】

瀬戸内町立諸鈍中学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】 少人数における学習者主体の授業

>> 「学習者主体」となる授業へ向けて

1. 導入・・・児童生徒が、授業の見通しをしっかりとって授業に臨むことができる。
2. 展開・・・中心発問について児童生徒それぞれが思考することができる場面を設定する。
3. 終末・・・学んだことを振り返り、自分のことばで伝えることができる。

導入

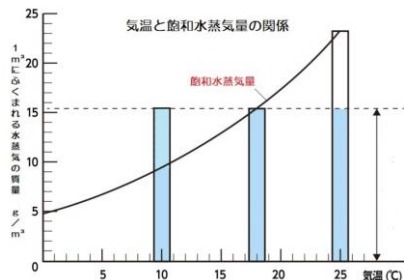
<めあて>

冷やした水を入れたコップに水滴がつくのはなぜだろう。

- 1 本時の目標と流れを確認する。

【目標の明確化】

- ◇めあてを提示し、Google Classroomを通して、学習内容を確認、各自で見通しをもって進める。



展開

- 2 実験結果と関連する「気温と飽和水蒸気量との関係」のグラフを読み解く。

◇課題とグラフを関連付けながら、Googleスライドに考え

をまとめ、水滴がつく理由をペアで話し合う。

C: 「飽和水蒸気量」・・・「飽和」って何？

T: このグラフ「再結晶」のグラフに似ていませんか？

C: ということは、水滴はあまっちゃったのかな？

- 3 生徒の発言をもとに学習内容について確認する。

- 4 本時の課題について、対話しながら図にまとめる。

【山場の工夫】

C: 飽和って、満タンってことかな。

C: 余ったから出てきたのかな。

T: なぜコップの表面につくのだろう？

C: コップの周りの気温が下がると・・・

- 5 まとめた内容をGoogleスライドを使って全体へ説明する。



終末

- 6 今日の学習について振り返り、次時の学習の確認をする。

◇Googleフォームで学習の自己評価する 【確かな見届け】

- 専門用語をどのタイミングで示すか、主体的に対話する流れを崩さないように盛り込またい。
- 「間違いをもとにして真実に迫る」というアプローチはよい。そういった経験の積み重ねが積極的に意見を出す主体的な姿につながると考える。
- 生活経験と関連させる、既習事項と関連させる、新たに生じる疑問などを見つけることも主体的に学ぶ姿勢につながる。
- 汎用的なソフトウェアを利用し、共有して発表させることで、有効に時間が使える。